

教科実践レポート

テーマ

～見方・考え方を働かせた授業づくり～

3年3組 社会科(公民的分野)

第3章 私たちの暮らしと民主政治

「民主政治と日本の政治」



【研究実践のポイント】

- ◎ 社会科における見方・考え方
- ◎ 単元計画
- ◎ 授業づくり
- ◎ 本時の見方・考え方、成果と課題
- ◎ 今後の改善策



【社会科における見方・考え方】

【公民分野】

社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。

自らで思考・判断・表現を繰り返す

深い学びへ

【単元計画】

単元ゴール 「民主主義を実現するために必要なことは何だろう。」

見方・考え方

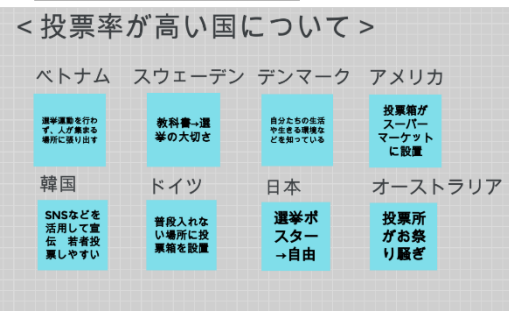
日本の投票率を上げるための工夫を、世界の選挙と比較し、実現可能か、投票率は上がるのかという視点から評価することで見方・考え方を働かせる。

【授業づくり】

「見方・考え方」をはたらかせ、深い学びを実現するために、本単元では「民主主義を実現させるために必要なことは何だろう。」という問を設定した。本時では、日本の選挙制度や課題などに着目し、海外の選挙制度の比較を行いながら、日本の選挙制度のこれからを考えていく授業を設定した。社会科としての見方・考え方をはたらかせることで、生徒は選挙とどう関わり、選挙における課題を解決するためには何が必要なのか考えていくことで、深い学びにつながると考える。

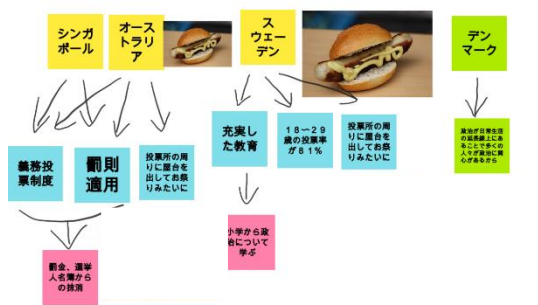


比較のための資料



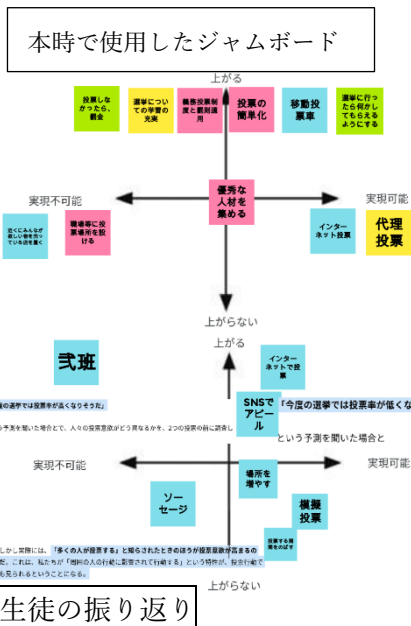
良さ

- 事前に登録することで、宇宙飛行士は特別な電子不在者投票を使用して宇宙から投票することができる アメリカ
- オーストラリアの投票所ではソーセージを出す
- インターネットによる代投票者の人権のアピール「韓国」
- 食卓で選ぶ政治の難しさ(北政)
- 候補者が学校に演説してくる(スウェーデン)
- インターネット投票ができる(エストニア)
- 候補者が学校に演説してくる(スウェーデン)
- 政治体験「スウェーデン」
- 選挙ポスターガビルの壁面に字アカカと張り出され、街中ではラッピングタクシーやバスが走り、爆竹や太鼓で派手な演出もある台湾
- コインランドリーなどにある投票所の扉は「アメリカ」
- 大臣と議論する 学校で選挙をしたり、高校で国会に集まれる(反映される)
- 1位 ベトナム 99.26%
- 2位 韓国 98.83%
- 3位 スウェーデン 87.18%
- 4位 オーストラリア 81.88%
- 5位 日本 76.59%
- 6位 アメリカ 66.20%
- 7位 デンマーク 65.90%
- 8位 台湾 65.20%
- 9位 韓国 64.80%
- 10位 中国 64.50%
- 11位 韓国 64.20%
- 12位 スウェーデン 63.18%
- 13位 日本 62.80%
- 14位 アメリカ 62.50%
- 15位 韓国 62.20%
- 16位 中国 61.80%
- 17位 韓国 61.50%
- 18位 中国 61.20%
- 19位 中国 60.80%
- 20位 中国 60.50%



本時の見方・考え方、成果と課題

本時の授業では、日本の選挙制度における課題である「投票率の低下」に着目し、なぜ投票率が低いのか、投票率が低いとどのような問題が発生するか考え、それらの問題を踏まえて日本の投票率を上げるための工夫を考えた。その際、考えた工夫は実現可能か、実現不可能なのかを評価し、批判的思考を使って意見を議論させながら、投票率を上げるためのより良い工夫を考えた。その中で、罰金制度は日本としてどうなのか、権利として勝ち得た選挙権を義務として国民に課してもよいのかなど、日本の選挙権の獲得の歴史なども踏まえ学習を展開していくことで深い学びへとつながるのではないかと考えた。



投票を義務化することで投票率は上がると思うけど、無理やり投票に行かせるのは民主主義じゃないと思うので、日本に合ったやり方が必要。

私は今まで投票に行く必要はないと思っていたけど、この授業を通して、自分の思いを伝えるために選挙に行こうと思うようになった。

<成果>

- ・投票率の低下に着目させたことで、振り返りで自身の投票に関する考えが変わった生徒がいた。
- ・日本と世界の選挙制度を比較し、投票率を上げるための工夫を考えることで、主義の違いや考え方の違いなど、新たな視点が生まれた。

<課題>

- 日本の選挙制度の課題である「投票率の低下」に着目したが、出し合いに終わってしまい、深まりを持つことができなかった。
- 日本と世界の選挙制度を比較し、工夫を考えさせたが、見方がずれてしまい、調べたことを活用できていない生徒もいた。

今後の改善策

- 見方・考え方を働かせるように、どこに目を付けたのか、なぜそこに目を付けたのかなど、説明できる場面を設定する。
- 見方・考え方ははたらかせ、深い学びにつなげるために自らの生き方やこれからの社会への関わり方を選択・判断できるような問を設定する。
- 見方・考え方がぶれないように、生徒が教科書や資料などから調べる際に、根拠となるものを探そう指導する。また、発表の際には、根拠をもって発表させる場面を設定し、その根拠が正しいかどうか調べる活動を取り入れる。



